

Commemorating the 20th Anniversary of Hiroshige Museum of Art, Ena

Autumn Special Exhibition

Ukiyo-e Kisokaido 3 Editions

Exhibition dates Period one: August 26th (Thu) - September 26th (Sun)
Period two: September 30th (Thu) - October 31st (Sun)
Period three: November 3rd (Wed/Public holiday) - December 5th (Sun)

木曾海道六拾九次之内
歌川広重

「豊国にかほ 国芳むしや 広重めいしよ」
当代きつての人気絵師たちによる
三者三様の「木曾街道」を
とくごとく観あれ。

開館20周年記念秋季特別企画展

浮世絵 木曾街道 三種揃踏

開館20周年

木曾街道六十九次之内
歌川国芳

木曾六十九駅
三代歌川豊国

会期

令和3年 (2021) 8.26 (木) ▶ 12.5 (日)

前期: 8.26 (木) ~ 9.26 (日)

中期: 9.30 (木) ~ 10.31 (日)

後期: 11.3 (水・祝) ~ 12.5 (日)

◎前・中・後期全作品入れ替え

中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

毎週金曜日は観覧無料 フリーライダー
〈スポンサー〉(株)銀の森コーポレーション、
木曾路物産(株)、(株)サラダコスモ
※令和3年(2021)9.17(金)まで有効。

Hiroshige Museum of Art, Ena Museum News 2021 Autumn

開館20周年記念秋季特別企画展

浮世絵 木曾街道三種揃踏

会期 令和3年(2021)

前期:8.26(木)~9.26(日)
中期:9.30(木)~10.31(日)
後期:11.3(水・祝)~12.5(日)
◎前・中・後期全点作品入れ替え

8.26(木) ▶ 12.5(日)

美人画の名手である喜多川歌麿や鳥文斎栄之、役者絵を得意とした東洲斎写楽や歌川豊国などの名が燦然と輝く寛政年間(1789-1801)。浮世絵の黄金期といわれる時代を経た後の19世紀は、葛飾北斎や菊川英山、溪斎英泉など個性豊かな絵師たちが活躍した、いわば浮世絵熟爛の時代です。しかし、当時の画壇を席卷したのは、歌川豊春を祖とする歌川派の絵師たちでした。歌川豊春(1735-1814)は、当時としては洗練された遠近構図を持つ浮世絵の制作や、華やかな肉筆美人画を得意としました。また、歌川豊国(1769-1825)、同豊広(?~1830)という一門の双璧を成す二人の絵師を育てたことは、豊春の大きな功績の一つです。彼らは後に国貞(後の三代豊国)、国芳、広重という幕末を代表する3人の浮世絵師たちの師となります。

広重と国芳は同い年で、同年に歌川の門を叩いた同期です。一方、三代豊国と国芳は兄弟弟子。若い頃から才能を発揮していた兄弟子の姿を、国芳はどのような思いで見つめていたのでしょうか。また、三代豊国と広重は一回りほど年が離れ、師も違いましたが、どうやら馬が合ったと見え、いくつもの合筆を残しています。さらに、弘化年間(1844-48)以降は3人による合作も複数企画されるなど、「三羽がらす」とも称された彼らの人気や話題性の高さがうかがえます。

常に新しいもの、面白いものを追求し、公権力に対する反骨精神を忘れなかった国芳。自然や人々の営みに寄り添い、風景画や花鳥画を浮世絵の一大ジャンルとして確立させた広重。人々の興味関心に対して常にアンテナを張り、江戸っ子に喜ばれる作品を生み出し続けた三代豊国。江戸時代後期の浮世絵界をけん引した彼らは、同じ流派に属する同志であり、人気を争うライバルでもありました。

さて、当時「豊国にかほ(似顔) 国芳むしや(武者) 広重めいしよ(名所)」とうたわれた3人は、それぞれの得意分野で木曾街道(中山道)をテーマとした揃踏を手掛けています。当館では2018年に三代豊国「木曾六十九駅」を新規収蔵。広重・英泉「木曾海道六拾九次之内」、国芳「木曾街道六十九次之内」と合わせ、3種の木曾街道シリーズが揃いました。

2021年9月、中山道広重美術館は開館20周年を迎えます。今年の秋は「中山道」を冠する当館で、歌川派の人気絵師3人の手になる木曾街道作品の豪華揃い踏みをご堪能ください。

観覧料 大人/820円(660円) ()内は20名以上の団体料金

★セット割(前・中・後期1回ずつ観覧できます)3期分まとめてお得!

大人1,500円 ※来館時に受付でお買い求めください。

★リピーター割

上記特別企画展期間中に限り、半券の提示で2回目以降は団体料金でご覧いただけます! 受付で半券をご提示ください。

□開館時間 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

□休館日 月曜日(ただし9.20(月)を除く) ※9.21(火)、24(金)、11.4(木)、24(水)は祝翌日のため、9.27(月)~29(水)、11.1(月)~2(火)は展示替えのため休館。

主催: 恵那市、恵那市教育委員会、(公財)中山道広重美術館

協力: 日本浮世絵博物館、メーテレ(名古屋テレビ放送)

関連イベント ※イベント内容等は変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

●学芸員による作品ガイド

日程: 前期 9.5(日)、中期 10.3(日)、後期 11.7(日)

各日午前10時30分~(40分程度)

場所: 展示室1、2(1、2F)

●木曾街道三種揃踏 各シリーズと作者

歌川広重・溪斎英泉

「木曾海道六拾九次之内」



②



③

天保6~9年(1835-38)頃刊行。歌川広重と溪斎英泉二人の絵師の手になる作品である。当初は英泉が作画を掛けていたが、後に広重へと交代。本揃踏は「東海道五十三次之内」(保永堂版)の成功を受け、保永堂・竹内孫が企画したものと考えられるが、版行については保永堂独から保永堂、錦樹堂(伊勢屋利兵衛)の共同出版となりその後錦樹堂単独、さらには錦橋堂(山田屋次郎)へ著作権が移譲されるなど、複雑な出版事情を有する。中山道を舞台に自然の険しさと美しさを捉えた情趣あふれる本は、広重の代表作の一つ。

広重めいしよ

歌川広重

(寛政9~安政5年/1797-1858)



本名安藤重右衛門、幼名徳太郎。江戸八代洲岸の定火消同心安藤家に生まれる。幼くして父母を失い13歳で家督を継ぐ。文化8年(1811)頃から歌川豊広に師事。若描きの時代には美人画や役者絵にも筆をそめる。天保3年(1832)には同心職を養祖父の嫡子に正式に譲り居、絵師に専念。天保4年(1833)頃から刊行が始まった「木曾海道五拾三次之内」(保永堂版)が好評を博し、以後風景画を中心に人気を得る。

①歌川広重「木曾海道六拾九次之内」 軽井沢

② " " " 宮ノ越

③ " " " 高宮

もともと武士だけど、小さい時に高麗を亡くして、平家さんだ。

とくちゃん

私は安藤徳太郎。とくちゃんだよ。
この展覧会の内容や浮世絵について
一言ガイドをするよ。

ついて

歌川国芳

「木曾街道六十九次之内」



④



⑤



⑥

三代歌川豊国

「木曾六十九駅」



⑦



⑧



⑨

嘉永5年(1852)閏2月～6年(1853)9月刊行。歌舞伎や浄瑠璃の他、読本、謡曲、中世説話集など、幅広い時代やジャンルの作品から材を取る。本作には、それぞれの宿場にその人物や逸話が当てられた理由を想像しながら鑑賞する「謎解き」の面白さがある。各宿場とその図で取り上げられた題材とが密接な関係にあるものもあれば、宿場名と題材とを単に駄じゃれや言葉遊びで結んだ図も少なくない。武者絵を得意とした国芳らしく、生き生きとした人物描写が特徴。

嘉永5年(1852)10～12月刊行。同年刊行の「東海道五十三次之内」(通称・役者見立東海道)の大好評を受け企画された。手前に役者の上半身を大きく描き、背景には宿場風景が描かれる。標題には各宿場にゆかりのある山川や地名、名所などと芝居の登場人物名が記されるのみ。しかし、描かれた役者の面貌や着物に見られる紋所、芝居の上演歴などから役者を割り出すことができる。また、当時現役だった役者のみならず物故役者も数多く描かれ、人々は往年の名優の姿も楽しむことができた。

国芳むしや



国芳は広重と同時で同い年の絵師だよ。私にはこんな絵は描けないなあ。

歌川国芳

(寛政9～文久元年/1798-1861)



豊国にかほ



三代歌川豊国

(天明6～元治元年/1786-1865)

幼名芳三郎。江戸日本橋の紺屋柳屋吉右衛門宅に生まれる。文化8年(1811)頃から初代歌川豊国に師事。役者絵を得意とした師・豊国や兄弟子・国貞の人気の陰に隠れ若い時分はなかなか芽が出ず不遇をかこつ。文政10年(1827)頃に発表した「通俗水滸伝豪傑百八人之一個」が評判となり、武者絵の分野で頭角を現し始める。以後、武者絵のみならず美人画や役者絵、戯画、名所絵などさまざまなジャンルで数多くの作品を残す。

※国芳は広重と同じく寛政9年の生まれだが、誕生日である11月15日は西暦に直すと1798年1月1日となり、広重とは西暦が1年ずれることとなる。

本名角田庄五郎。江戸本所の渡し場を経営していた亀田屋庄兵衛宅に生まれる。享和元年(1801)頃に初代歌川豊国に師事、国貞と名乗り作画を開始する。師の技をよく受け継ぎ、若い頃から役者絵の分野で人気を得る。弘化元年(1844)には二代豊国※を襲名、名実共に歌川派をけん引する存在となる。役者絵の他、美人画も得意とした。非常に多作で、生涯に手掛けた作品は1万点を超えともいわれる。※初代と国貞の間には短期間ではあるが既に二代豊国を名乗っていた絵師がおり、実質的には三代目である。

⑦三代歌川豊国「木曾六十九駅 熊谷 熊谷寺 蓮生坊」

⑧ " " " 本山 三浦山 片貝

⑨ " " " 細久手 日吉の里 此下藤吉

④歌川国芳「木曾街道六十九次之内 蔵 犬山道節」

⑤ " " " 大井 斧定九郎

⑥ " " " 今須 曾我兄弟

三代豊国さんは広重より一回り上だけど、広重の死絵を書いてくれたんだよ。仲がよかったんだね。

Museum
Shop
News

ミュージアムショップからのお知らせ

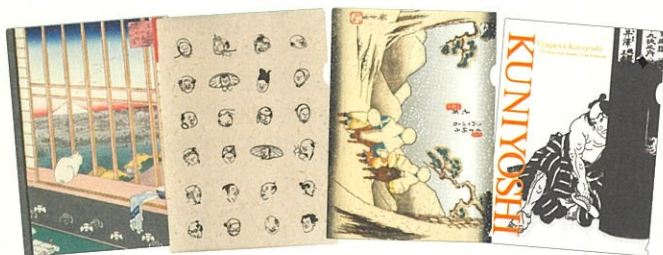
開館 20 周年記念図録

「浮世絵木曾街道 3 種揃踏」完成！

秋季特別企画展「浮世絵木曾街道三種揃踏」開催に合わせた当館オリジナル図録が完成しました！広重・英泉、国芳、三代豊国が描いた中山道の揃物3種を全て掲載。同じ宿場を描いた3図を見開きで掲載し、それぞれの作品を一目で比較できるようにしました。また、各図版ごとに日本語・英語の解説が付いています。当館ミュージアムショップ、またウェブミュージアムショップで販売予定です。他ではなかなかお目にかかれない、当館ならではの図録です。この機会にぜひお求めください。



またリニューアルした新柄のオリジナルクリアファイルも販売します！オリジナルグッズはホームページのウェブミュージアムショップでも販売予定です。ぜひチェックしてみてください。



くご来館の皆さまへ

入館の際は引き続き、手指消毒、マスク着用、検温など、新型コロナウイルス感染予防対策にご協力を願います。また展示室内や浮世絵ナビルームでは、他のお客さまと距離を取って、鑑賞、体験をしていただきますようお願いいたします。



中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町 176-1
TEL(0573)20-0522 FAX(0573)25-0322
<https://hiroshige-ena.jp>
*JR 中央線恵那駅から直進徒歩約 5 分
*中央自動車道恵那インターから約 5 分

連続講座について

2021.10-12

中山道広重美術館開館20周年記念 令和3年度連続講座秋季日程開講

「浮世絵×広重 一広重の画業とその周辺」

10.9(土)から、連続講座の秋季日程が始まります。第4回、第5回は秋の特別企画展の内容にも関連するテーマですので、ぜひ展覧会と合わせてご聴講ください。また、最終回には広重の手掛けた肉筆画についてお話しいたします。

〈講座日程・内容〉

秋季講座	〈第4回〉10.9(土)	
	菅原 真弓氏 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)	
	「広重描く中山道の旅」	
	〈第5回〉11.6(土)	
	渡邊 晃氏 (太田記念美術館上席学芸員)	
	「広重と国貞」	
	〈第6回〉12.4(土)	
	長井 裕子氏 (那珂川町馬頭広重美術館課長補佐/主任学芸員)	
	「広重と肉筆画」	

※日程・内容等を変更する場合がございます。

▲当日空席が発生した場合は、1回 500円（観覧料別）で単独受講も可能です。詳しくは美術館までお問い合わせください。

●場所：中山道広重美術館講座室（3F）

●時間：各回 午後1時30分～3時30分（質疑応答を含む）（予定）

展覧会案内

2021.12-2022.3

■企画展「東西広重名所絵尽くし」

【会期】令和3年(2021)12.9(木)～令和4年(2022)1.16(日)



東の江戸に、西の京都。東海道や中山道によって結ばれた東西の都は、多くの旅人たちが夢見た場所でした。思わず旅情をかき立てられる、東西の絶景をご堪能ください。

歌川広重「京都名所之内 淀川」

■企画展「広重円熟期の画業 一錦絵から絵本まで」

【会期】1.20(木)～2.20(日)



保永堂版《東海道五拾三次之内》で一躍有名となった広重は、その後も幅広い画域で筆を振るいました。本展では広重が精力的に活動した、嘉永年間の作品を中心に紹介します。

歌川広重「東海道 五十五次 程か谷」

■企画展「はるかかなたを思い描く 一六十余州名所図会から」

【会期】2.23(水・祝)～3.27(日)

多くの名所を描いた広重は、必ずしもすべての場所を直接訪ねておらず、画面を再構築し、「実景らしく」描き出しました。その構図作りの妙をご覧ください。

歌川広重「六十余州名所図会 対馬 海岸夕景」



○上記3企画展観覧料＝大人520円、20名以上の団体料金は420円



美術館ホームページ



ウェブミュージアムショップ